



132、133頁の掲載

対人援助学から

被災者支援報告

中京でシンポ

「東日本大震災シンポジウム―東日本大震災と対人援助」が10日、京都市中京区の立命館大朱雀キャンパスで開かれた。写真。社会学や臨床心理学など複合

的な視点を通じて人を支援する「対人援助学」を学ぶ学生が、東北4県で実施したプロジェクトを報告し、必要な支援策や今後の課題を話し合った。

立命館大学院応用人間科学研究科が主催し、会場には約60人が参加した。

同研究科は、東北地方で教員やソーシャルワーカーらを支援するセミナーや体験講座を2011年5月から開催。対人援助学の観点から必要な支援を探っ

ている。シンポでは、プロジェクトに参加する学生3人が報告した。被災地で取り組んだ子ども向けのカレンダー作りが広がっている例を示し、「被災者が必要としているサービスは、がれき撤去など直接的な働きかけだけではない」と指摘。同研究科1年の藤原佳世さんは「何かを渡すというのではなく、被災者の力を引き出す支援が重要」と話した。

(宇都寿)